

稲・大豆作情報 (NO.8)

1. 水稲作況情報田の生育概況(8月20日現在)

| 品 種 場 所 | 移植日 栽植株数 | 年 次 | 現在の生育状況 | | | | 概況 |
|---------------------|-----------------|-------------------|-------------------------|---------------------|------------------------|--------------|---|
| | | | 草 丈 c m | 茎 数 本/㎡ | 主稈 出葉数 | SPAD | |
| 夢しずく 佐賀市 本庄町 | 6/15 18.1株/㎡ | 本 年 平 年 平年比 | 出穂期 8月16日 (平年より1日遅い) | | | 35.7 38.0 | 情報田の夢しずくは傾穂始めとなっている。さがびよりは止め葉抽出期となっている。 |
| さがびより 小城市 芦刈町 | 6/20 18.1株/㎡ | 本 年 平 年 平年比 | 88.7 89.8 (99) | 416 460 (90) | 14.4 14.9 (-0.5) | 37.5 35.8 | |
| ヒヨクモチ 小城市 牛津町 | 6/27 18.1株/㎡ | 本 年 平 年 平年比 | 65.1 75.7 (86) | 637 543 (117) | 14.4 14.7 (-0.3) | 37.4 39.9 | |

注1) 各品種 前作：麦、前前作：水稲。

注2) 施肥及び病害虫防除は地区基準に準ずる。

2. 水稲管理

○今週の水管理

・夢しずくは、間断灌水に努めて、根の健全を図るとともに早期落水をしない。さがびより・ヒヨクモチは、稲の要水量が最も必要とされる‘穂ばらみ期’であるため灌水期間を長めにした間断灌水に心がける。

○病害虫の発生状況

- ・**いもち病**の発生は、平年よりやや少ないが、常発地は、必ず‘穂ばらみ後期’（出穂3～5日前）を中心に防除を行う。
- ・**ウンカ類の発生**は、平年よりやや少ない状況であるが、今年は高温少雨で推移しており、多発しやすい条件ではあるため、トビイロウンカの発生量には十分注意し、発生量が多い場合は防除を行う。2回目防除適期は、8月26日～30日頃となっている
- ・**斑点米カメムシ類**は、出穂直前や出穂後畦畔除草を行うと水田内に斑点米カメムシ類を誘い込んで被害を助長するため、出穂10日前までに草刈りを済ませる。時期を逸した場合には除草しない。発生が懸念される山麓部や河川敷付近等、例年発生の多い圃場では本田防除を徹底する。

【草刈りの時期の目安】

さがびより：まもなく出穂期を迎えるため実施しない。ヒヨクモチ：8/30頃まで

○ヒヨクモチの穂肥について ～穂肥の施用を！～

今年は、高温がつづき稲体の消耗が激しい状況である。一発くん施用圃場でも、葉色が淡い場合（SPADが40以下）は、出穂15～10日前（8/25～9/1頃）にBB602を10～20kg/10a施用する。

元肥にLPBB480を施用した圃場で、穂肥にLPBB804を施用する場合は施肥時期である幼穂2～5mmとなっているため、早急に施用する。

3. 大豆管理

7月中旬播種は今週～来週にかけて開花期を迎える。

○病害虫～白変葉の発生はありませんか??圃場の観察を～

・ハスモンヨトウ、オオタバコガの発生については、平年並みとなっているが、複数の地域で白変葉の発生、フェロモントラップの誘殺数の増加がみられている。今後は、圃場の白変葉の発生状況に留意し、防除時期を検討する。

○雑草防除

- ・**イネ科雑草**が多いところでは、ポルトフロアブル等で防除する。
- ・7月中旬に播種された大豆は、まもなく開花期を迎えるため、大豆バサグランの茎葉散布は控える。

